

4 歳児 保育指導案

尾道市立木ノ庄東幼稚園

- 1 日 時 令和元年11月13日(水)
- 2 場 所 保育室・園庭
- 3 学 級 4歳児 たんぽぽ組 18名(男児12名 女児6名)
- 4 幼児の姿と教師の願い

(1) 幼児の姿

①クラス全体の子供の姿

遊びへの意欲が強く、自分達でやりたいことを形にしようと動いたり、遊びをもっと楽しくするために考えたりする姿が見られる。自分の思いを実現しようとする気持ちも強いので、環境への関わりも積極的である。その反面、互いに思いが強いので折り合いがつけにくい様子もある。少しずつ3、4人の気の合う友達との遊びを好むようになり、一緒に遊ぶために相手の話を聞いたり自分の気持ちを抑えようとする姿も見られるようになってきている。しかし、育ちについては個人差が大きく、教師のかかわりがあることで安心して遊びを楽しめる子供もいる。

②遊びにおける子供の姿(本日の遊びに至るまでの経過)

戸外が好きな子供達は、鬼ごっこやリレー、サッカーなど、体を動かして発散して遊ぶことを楽しんできた。ラグビーワールドカップから刺激を受けてラグビーに挑戦したが上手くいかなかった。その経験から自分たちなりの遊び方を考えるようになり、ラグビー鬼ごっこや氷鬼ごっこなど、ルールを決めて遊ぼうとしている。

たんぽぽステージは、プリキュアダンスとして始まり、4月当初から形を変えながら続いている。家族と一緒にコンサートを見た友達から「ギター演奏に合わせて歌を歌ったり、踊ったりする人がおった。他にも楽器があったんよ」という話を聞き、以前作っていたギターを持っての演奏会が始まった。なり切って歌って踊ったり、音楽や友達の歌に合わせて演奏したり、指揮をしたりして、自分なりの表現を楽しんでいる。

ドングリ転がしは、室内でのピタゴラスイッチ遊びがドングリ転がしに変化し、テラスへと延びていき、砂場あそびとつながって戸外へと向かっていった。砂場のドングリ穴を目指して雨どいをつなげていたところから、使い慣れた雨どいと新たな道具を組み合わせて転がし方の工夫を楽しむようになっている。

木の実の人形遊びは、ドングリごま遊びからつながり、自分なりのイメージをもって登場人物を増やしたり、ドールハウスのような手作りの家や人形の遊び場を作ったりしてじっくりと遊んできた。少しずつ興味をもつ人も増えてアイデアも広がってきて、マンションや公園、滑り台などイメージを膨らませながら楽しんでいる。

(2) 教師の願い

友達と戸外でのびのびと遊びながら、自分達で決めたことや遊びのルールを守って遊ぶことを楽しめるようにしていきたい。また、一人一人が自分のやりたいことや考えていることを言葉や動きや表情で表しながら、気の合う友達とかかわって遊ぶ楽しさや心地よさを感じられるよう、個々の思いを大切に受け止めていきたい。思いがぶつかって分かり合えないときもあるが、不満を抱いたり泣いたりしながらも思いを出して、互いの気持ちに気づいていって欲しい。環境との関わりについては、今しか味わうことのできない秋の面白さを遊びに取り入れて、じっくりと考え工夫して関わり、気の合う友達とのやり取りを楽しめるようにしていきたい。